

志桜小だより



カラー版を
ご覧ください。

8月号

宝達志水町立志桜小学校

TEL 29-2052

FAX 29-2069

学校ホームページ <https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/shiozze/>

学校メールアドレス web-shio@hodatsushimizu.jp

ホームページは
こちらから

校長 宮下 慶子

- めざす児童像
- 目標をもち 自ら進んで学び よく考える知恵のある子
 - 強く しなやかな心をもち 温かな人間関係をつくれる子
 - 困難に打ちかつ気力・体力のある子



あつ〜い、あつ〜い、夏休み
残りすこ〜し



こんにちは。校長の宮下です。暑い暑い暑い夏休みです。
子ども達の体調はどうでしょうか？宿題の進み具合はどうでしょうか？
長いと思っていた夏休みですが、残りわずかとなりました。

これまでに大きな事故や事件の知らせはありません。ほんとに安堵しています。

さて、2学期の始業式は、9月1日です。残暑が厳しそうで、子ども達の健康管理が難しいことが予想されます。それでも、元気に2学期のスタートを切りたいと思います。運動会の練習も始まります。

ご家庭でも、子ども達が**学校のリズム**を早く取り戻すことができるよう、**早寝・早起き・朝ご飯、睡眠時間の確保**のご協力をお願いします。まずは夜遅く寝るのではなく、**早く寝ること**です。



全力で泳いだ水泳記録会！



がんばったぞ〜
by 3年生



緊張の
スタート



たくさんの保護者の
みな様の応援、
ありがとう
ございました。



7月23日に、校内水泳記録会が行われました。新しい志桜小学校になってはじめての記録会でした。
応援のご家族が、たくさん駆けつけてくださり、子ども達のやる気UP！

校長先生から「自己記録の更新と熱い応援を！」のお話の後、いざ！本番スタート！どの学年も練習の成果を発揮して、気迫あふれる泳ぎがたくさん見られました。自己ベスト更新に、ガッツポーズ！25mの達成に笑顔！50mの平泳ぎ、クロールへの挑戦に大きな拍手！

プールサイドからは、仲間の奮闘に「〇〇〜がんばれー」「もうすこー」という熱い声援が送られました。
ご家族のみな様の応援や拍手も子ども達のがんばりにつながりました。暑いなかの応援、ありがとうございました。





夏休み中 ご協力ありがとうございました。

保護者の皆様には、酷暑の中、夏休み中の**ラジオ体操**の当番、**プール当番**（6年生の保護者のみな様）などたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。

また、子ども達の夏休みの宿題や自由研究等への**サポート**についても、ご理解くださりありがとうございました。

志桜っ子ひとりひとりが、残りわずかとなりました夏休みを有意義に過ごすことができますよう、引き続きよろしくお祈いします。



プール解放（7/22～8/1）
のべ利用児童数

580名！

暑さのため、時短で実施。
ご協力ありがとうございました。

子ども達は、
暑さに負けず、
真っ黒！体力UP！



シリーズ
非認知能力

志桜小学校では
子ども達の**非認知能力**を
大切に考えています。

0～9歳は、**気質時代**
自分全開で過ごす時期

「生まれ持っている気質（先天的に持ち合わせている、その人の情緒的な特徴）はひとつではなく、いちばん『濃度の高い』気質が表面に表れやすい。この時代は、気質がそのまま非認知能力として発揮されます。」

志桜小学校では、開校とともに子ども達の「非認知能力」をすべての教育活動のベースにと考えています。（子ども達には、下図の様に「3つの力」として伝えています。）

今回は、岡山大学准教授 中山芳一氏のコメントの抜粋です。

「…大人も、大変な仕事を最後までやり遂げたり、はじめて合う人と打ち解けたりと非認知能力を使いこなしています。」

『成長とともに、その場面で必要な力を使い分けたり、使いこなしたりすることが目標です。小学生時代は、大人が子どもの状況に

最適な声かけや接し方を心がけることで、子どもは非認知能力を**意識できる**になり、**活用しやすくなります**。』

例えば、なにかが成功したときに「なんとなくできた」で終わらせるのではなく「どうやったらできたの?」と聞いてみる。すると子どもは、「みんなで協力したから完成できた」という具合に、非認知能力を実感できるのです。『これを積み重ねて、子どもは非認知能力を使いこなせるようになっていきます。』

「…子どもが非認知能力を伸ばすために、大人が働きかけたい部分は、子どもの『**気質**』と『**意識**』です。

それぞれの特性を知って、実践してみましょう。」今回は0～9歳編です。

AERA with Kids』(朝日新聞出版)参照。



中山芳一氏



やるといいこと1

気質を「肯定」する

たとえば、内向的な気質の子どもに「もっと前にでなさい、大きな声で話さない」と言っても、本人にとっては苦痛以外のなにものでもありません。さらには子どもを否定することに…「この子は、こういう気質なのだ」と親が受け入れることがポイントです。

やるといいこと2

客観的な声かけ

この時期に効果的なもうひとつの意識づけ。「お姉ちゃんが、この前あなたが手伝ってくれてすごく助かったって言ってたよ!」と他者目線で声をかけると直接伝えるより心に残りやすく、強力な意識づけとなります。こどもがよいことをした場面では、「今のよかったね!」と瞬時に伝えてあげるのもおすすめです。気質時代は、『即時的』が響きます。